

宙を拓くタスクフォース(第7回)
議事要旨

1. 日時 平成 31 年 4 月 17 日(水) 15:30～17:00
2. 場所 総務省 8 階 第 4 特別会議室
3. 出席者
 - (1) 構成員
中須賀主査、荒井構成員、石川構成員、蔵本氏(岡島構成員の代理)、押田構成員、河合構成員、川原構成員、佐藤構成員、志佐構成員、森信構成員、矢野構成員、渡辺構成員
 - (2) オブザーバ
内閣府宇宙開発戦略推進事務局、
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課、
株式会社 NTT データ経営研究所
株式会社三菱総合研究所
 - (3) 総務省
吉田国際戦略局長、泉大臣官房審議官、藤野総務課長、
坂中技術政策課長、村上宇宙通信政策課長、西室衛星開発推進官、笠井局付
4. 議事要旨
 - (1) 「宇宙を拓くタスクフォース」報告書(案)
事務局から資料に基づいて説明が行われた。構成員等からの主な意見は以下のとおり。

○月に関し、Gateway 開発などの話を追記すべき。
○衛星コンステレーションの話でも米国などが投資していることは追記しても良いのではないか。
○世界の市場の伸びについて「どこが伸びているのか」というのが見えると良いのではないか。
○世界の市場と日本の市場において、官需、民需の違いは大きいと思っている。そこを表せないか。
○2030 年代に活躍される若い世代の教育の重要性についても言及すると良いと思う。

- 宇宙飛行士の募集がなされると、宇宙分野が世の中の注目を浴びる良いチャンスになる。一方で、将来は宇宙「飛行士」、だけでなく、宇宙大工、宇宙料理人、宇宙整備人など、宇宙ビジネスに関わる多様な職種が出来るので、それを目指すプログラムがあって良いのではないか。
- プログラミング教育の中で宇宙データを取り扱うなど、中高生向けの ICT 教育の中に宇宙が入ると面白いのではないか。
- 将来像について、様々な仕事がうまれることを書くと良いと思う。
- 報告書(案)の情報量が多いため、読者にとっては、将来像とそれを実現するための宇宙×ICT 事業化促進プログラムの関係性がわかりにくく感じられるのではないか。
- 宇宙×ICT 事業化促進プログラムについては、図だけでなく文章として、もう少し書き下しても良いのではないか。
- 通信ミッションの相乗りについては、ホステッドペイロードとロケットの相乗りの両方あり得るため、わかりやすく記載した方が良い。
- 周波数の共用検討については、特定の周波数帯を意図しているわけではなく、システム間の共用等の検討が必要であるとのことであるが、今の文書だと分かりにくいので、修正をした方が良い。
- コンテストや宇宙実証機会の拡充による多様なアイデアの実現支援については、総務省として ICT 分野全体での取組を進めて欲しい。
- 宇宙空間における通信環境の確保について、衛星通信を確保するためには、デブリの動きを捉えた上で精密な軌道計算を行う必要という主旨と思うが、わかりやすく表現した方が良いと思う。

(2) その他

事務局から、今回の意見を踏まえ、報告書(案)を修正した後、意見募集(パブリックコメント)を行い、その結果を5月下旬に開催されるタスクフォースで議論する旨の説明が行われた。

今回の意見を踏まえた報告書(案)の修正については、中須賀主査に一任することで承認された。

以上